

# 本願寺(西本願寺)周辺エリア

～本願寺・東寺界わい景観整備地区・島原～

## エリア概要

この地域一帯は、大伽藍を持つ西本願寺・東本願寺を中心として、寺内町として発展した。両本願寺の寺内町では、仏壇・仏具・人形等の地場産業の生産と販売を兼ねた店舗や参拝者宿坊である和風旅館が軒を連ねている。また、島原には、芸能と文芸の発展に寄与した日本のもてなし文化の粋が残されている。両本願寺の大屋根と渉成園の緑地空間は、地域のランドマークであるとともに、京都を代表する景観である。また、島原はすでに住宅に建て替わっているものも多いが、通りに面して豪壮な格子を構える

る角屋や輪違屋及び島原大門が花街の名残を残している。特に、本願寺・東寺界わい景観整備地区の本願寺地区は、東西の本願寺の「寺内町」として400年余にわたり都市生活が営まれてきた歴史的市街地である。仏具、法衣等の宗教関連用品を扱う見世造りの商店、しもた屋等の町家に見られた加敷天井、腕木びさし、木格子等の特徴ある様式を持った建築物、寺内町寺院の表構え、大寺院の躰等により形成される町並み景観は地区に固有のものである。



## 西本願寺（世界遺産）

境内の歴史的建造物、樹木等及びそれらの背景にある空間によって一体的に構成される。



## 本願寺・東寺界わい景観整備地区

西本願寺寺内町の中でも固有の景観が色濃く残る場所であり、仏具、法衣等の宗教関連用品を扱う見世造りの商店、しもた屋等の町家に見られた加敷天井、腕木びさし、木格子等の特徴ある様式を持った建築物、寺内町寺院の表構え、大寺院の躰等により形成される町並み景観が残る。



西本願寺総門



## 島原

寛永18年前後、幕命によって六条三筋町の遊里が大宮通の西の農村部に替地を命じられて移転してきた。遊里の景観から、島原の乱の島原城に見立てられ、島原と通称されたと伝えられる。<sup>1)</sup>

現在も近世の面影を残すものとしては東入口で正門にあたる大門や、旧揚屋の角屋・置屋の輪違屋、天神社と住吉神社がある。<sup>2)</sup>



角屋



島原大門

## 堀川通

京都市街地の中央部にある南北路。西本願寺と興正寺の門や塀、巨大な伽藍を望む。



## 花屋町通

西本願寺の塀に挟まれた通りであり、落ち着いた景観が見られる。

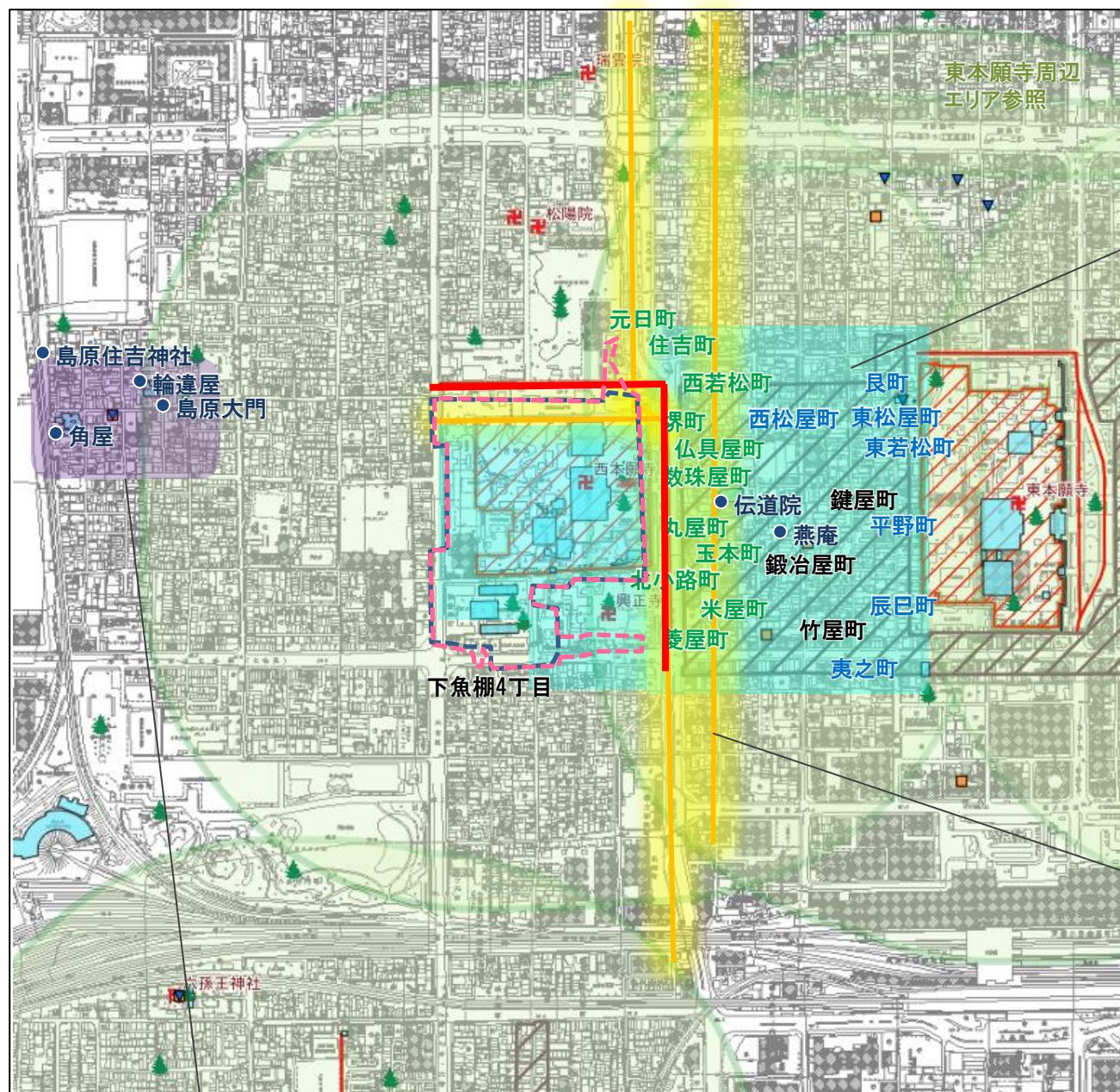


西本願寺の建物である伝道院や、西本願寺とのつながりのある燕庵があり、特徴的な景観を形成している。<sup>3)</sup>



油小路通は、本山参詣者の宿泊施設の一群があった場所であり、<sup>4)</sup> 現在もところどころに小さな旅館が点在し、かつての風情を残している。

# エリアの概要



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

### 西本願寺と興正寺

天正19年(1591)秀吉の命により本願寺と興正寺が建設され、坊官や商工業者が移住して寺内町(西寺内)が形成された。町々では、経典出版や仏具屋などの西本願寺と関係の深い生業だけでなく、米屋・造酒屋など種々の職業が営まれる商工業の町であった。<sup>7)</sup> 現在も、仏具屋などが点在し、面影を残す。また、生業がそのまま町名に反映されているところもあり、その様子が残っている町もある。



### 町名とのつながりが現在もある町

<下魚棚町>  
鮮魚店が軒を連ね、洛南の農村と洛地域として、両者の性格をあわせもつ境界の町々として発展した。<sup>8)</sup>

<珠数屋町>  
旅館街である「客屋十二町」の一つ。「坊目誌」によると、珠数屋が多数軒を並べていたことによる名という。<sup>9)</sup>

<鍛冶屋町>  
近世には西本願寺寺内町となった。町名については、「某目誌」には、「慶長依頼徳川氏ノ扶持せる刀剣ノ鍛冶工此に住し、寛政年中に至る。仍て町名とす」と記されている。<sup>10)</sup>

<鍵屋町>  
近世には西本願寺寺内町となった。町名由来は「坊目誌」に「元鍛冶と号する巨商此に住せより。自然の通称に鍵屋の町と呼ぶ。」とある。<sup>11)</sup>

<竹屋町>  
近世には、西本願寺寺内町となった。町名は、この地に竹材を販売する者が居住していたことによるという(坊目誌)。<sup>12)</sup>



珠数屋町にある念珠店

### 油小路通

西本願寺が建設されてから、「客屋十二丁」とよばれる本山参詣者の宿泊施設の一群があった場所である。客屋十二丁とは、由緒町でもある西若松町・仏具屋町・玉本町・米屋町といった油小路通四町である。現在も、旅館が点在している。<sup>13)</sup>



### 島原

寛永18年前後、幕命によって六条三筋町の遊里が大宮通の西の農村部に替地を与えられて移転してきた。遊里は堀をめぐらし、堀の内側には土塀が築かれ、周辺の農村部と隔絶されていた。<sup>5)</sup> また、郭内には天神社と住吉神社が祀られ、その祭礼は賑わった。入口はその東側一方にのみ開いていた。<sup>6)</sup> 現在も近世の面影を残すものとしては東入口で正門にあたる大門や、旧揚屋の角屋・松本楼、置屋の輪違屋などがある。



角屋



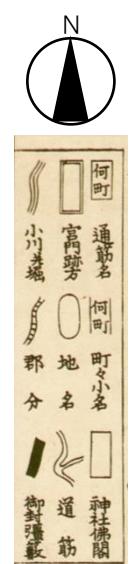
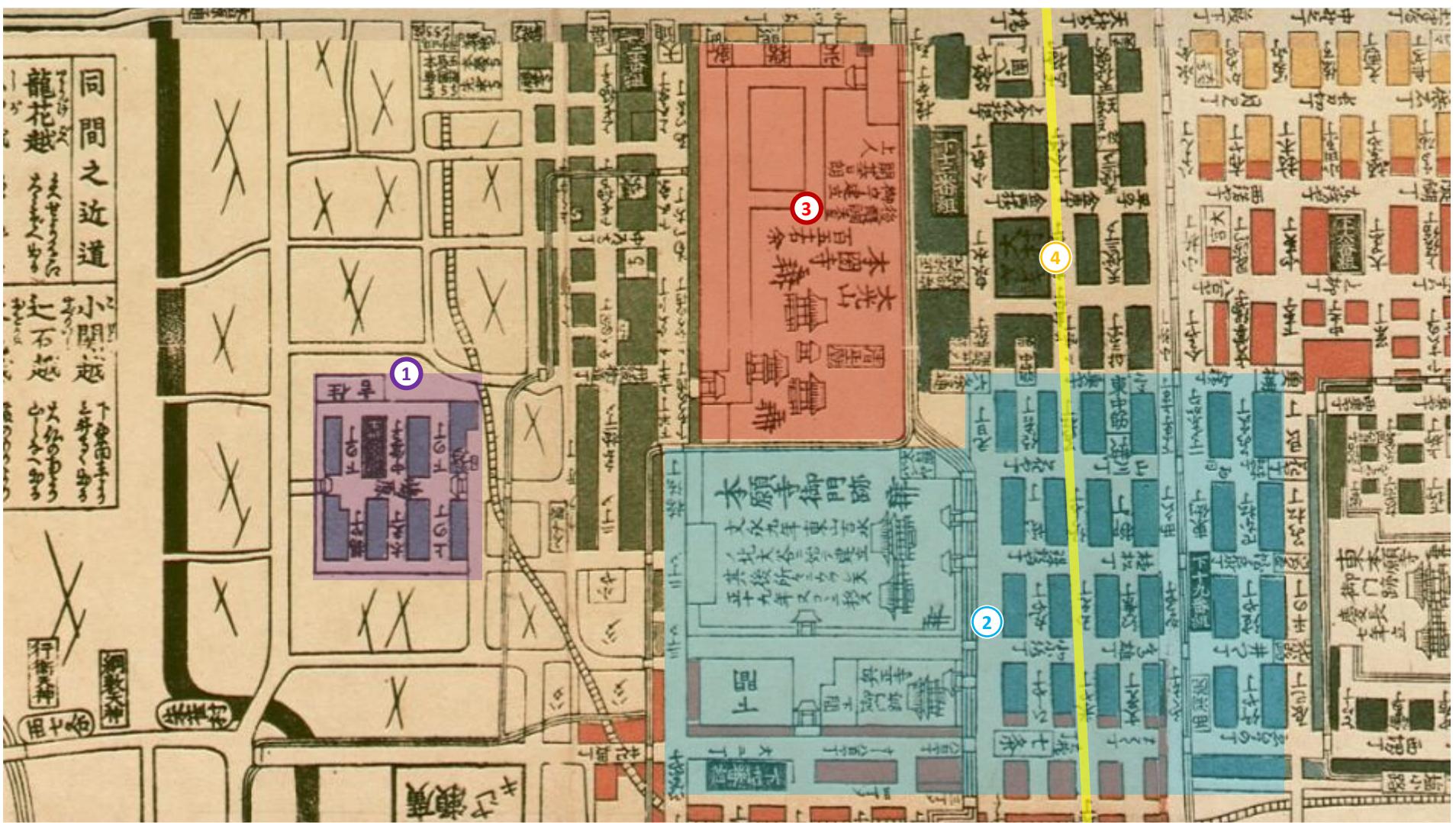
島原大門

【凡例】	建造物・庭園	樹木
視点場(境内)	景観重要建造物・歴史的風致形成建造物	天然記念物
視点場(参道等)	歴史的意匠建造物	保存樹・区民の誇りの木
近景デザイン保全区域	界わい景観建造物	
特に着目する通り	京を彩る建物や庭園	
明治25年以前から存在する市街地	文化財(建築物)	明治16-18年時点の境外
界わい景観整備地区	文化財(史跡・名称)	明治16-18年時点の境内
	国土地理院社寺データ等 ※	

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m2以上の社寺データ

# エリアの土地利用の変遷 (1)

明治2年(1869年)(上地政策による境内地減少前)



京町御絵図(明治2年)

**① 島原**  
寛永18年前後、幕命によって六条三筋町の遊里が大宮通の西の農村部に替地を与えられて移転してきた。遊里は堀をめぐらし、堀の内側には土塀が築かれ、周辺の農村部と隔絶されて、入口はその東側一方にのみ開いていた。このような遊里の景観から、三年前の寛永十五年に終結し、記憶に新しかった島原の乱の島原城に見立てられ、島原と通称されたと伝えられる。<sup>1)</sup>  
明治2年になっても周辺は市街化していない。

**② 西本願寺寺内町と興正寺**  
天正19年(1591)秀吉の命により本願寺と興正寺が建設され、坊官や商工業者が移住して寺内町(西寺内)が形成された。町々では、経典出版や仏具屋などの西本願寺と関係の深い生業だけでなく、米屋・造酒屋など種々の職業が営まれる商工業の町であった。<sup>7)</sup>  
西寺内は北は六条通、南は下魚棚通北、東は新町通東、西は大宮通西である。寺内町のなかには、俗に「古町」「由緒町」と称して、他町より一段高い格式をもつ町が十三町あった。その十三町は、表処置録によれば、良町・辰巳町・平野町・若松町(現東若松町)・東松屋町・夷之町・夷之町西組・西松屋町・丹波街道町の九町と、油小路通の西若松町・仏具屋町・玉本町・米屋町の4町で、油小路通の4町が特に由緒町とよばれた。  
また、古町・由緒町のほか、「客屋十二丁」とよばれる一群があり、本山参詣者の宿泊施設であったことがわかる。客屋十二丁とは、由緒町でもある油小路通四町、すなわち西若松町・仏具屋町・玉本町・米屋町と、元日町・北小路町・植松町・数珠屋町・住吉町・堺町・丸屋町・菱屋町であった。<sup>4)</sup>

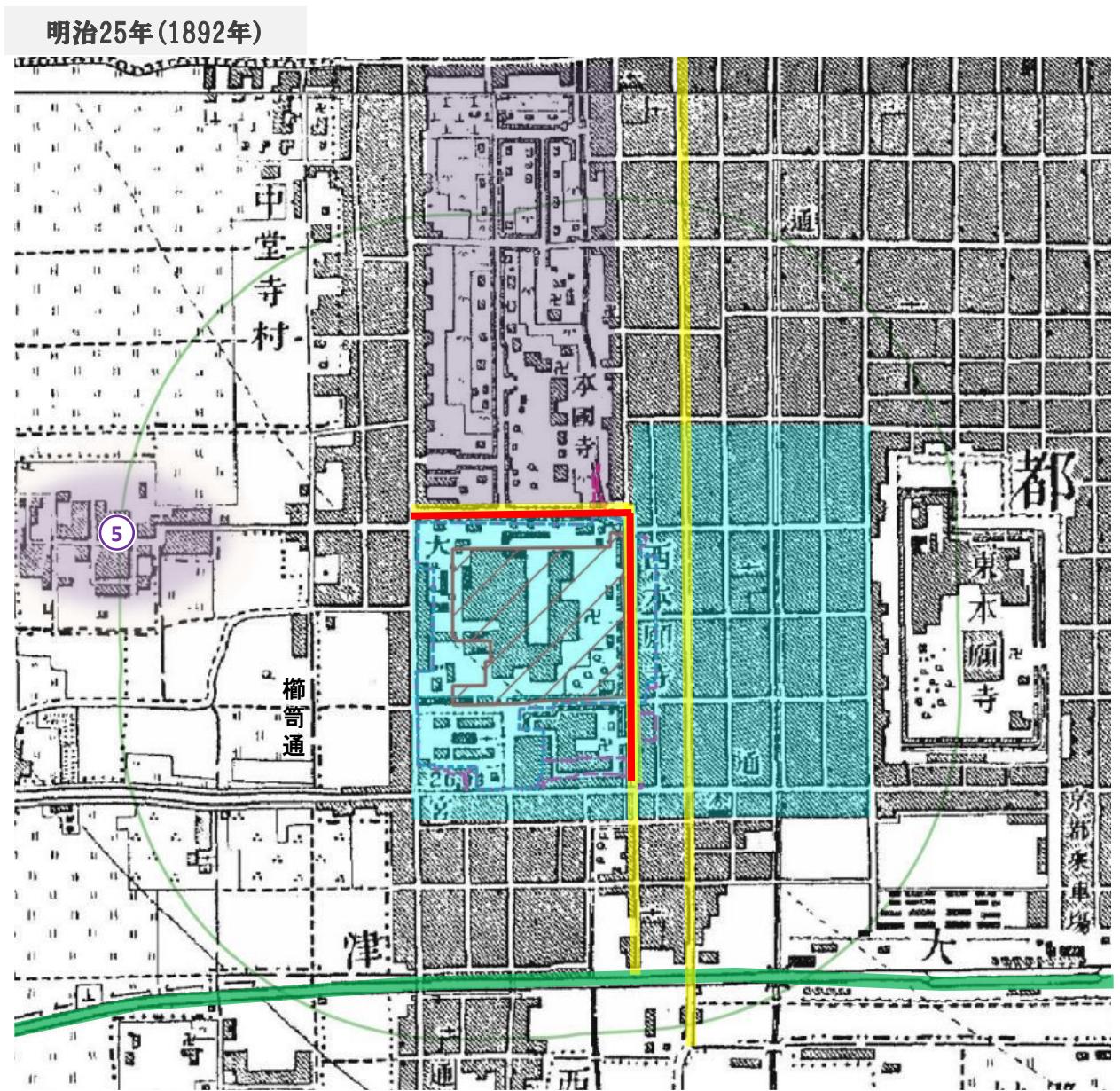
**③ 本圀寺**  
本圀寺の創建については諸説あるが、六条堀川に寺地を定めたのは十四世紀半ばと伝えられている。今は移転しており存在しない。<sup>14)</sup>

**④ 油小路通**  
平安京の油小路にほぼ相当。内裏東の官庁街と連絡する重要な通路で、左京の都市的発展の一つの軸となった。<sup>15)</sup>



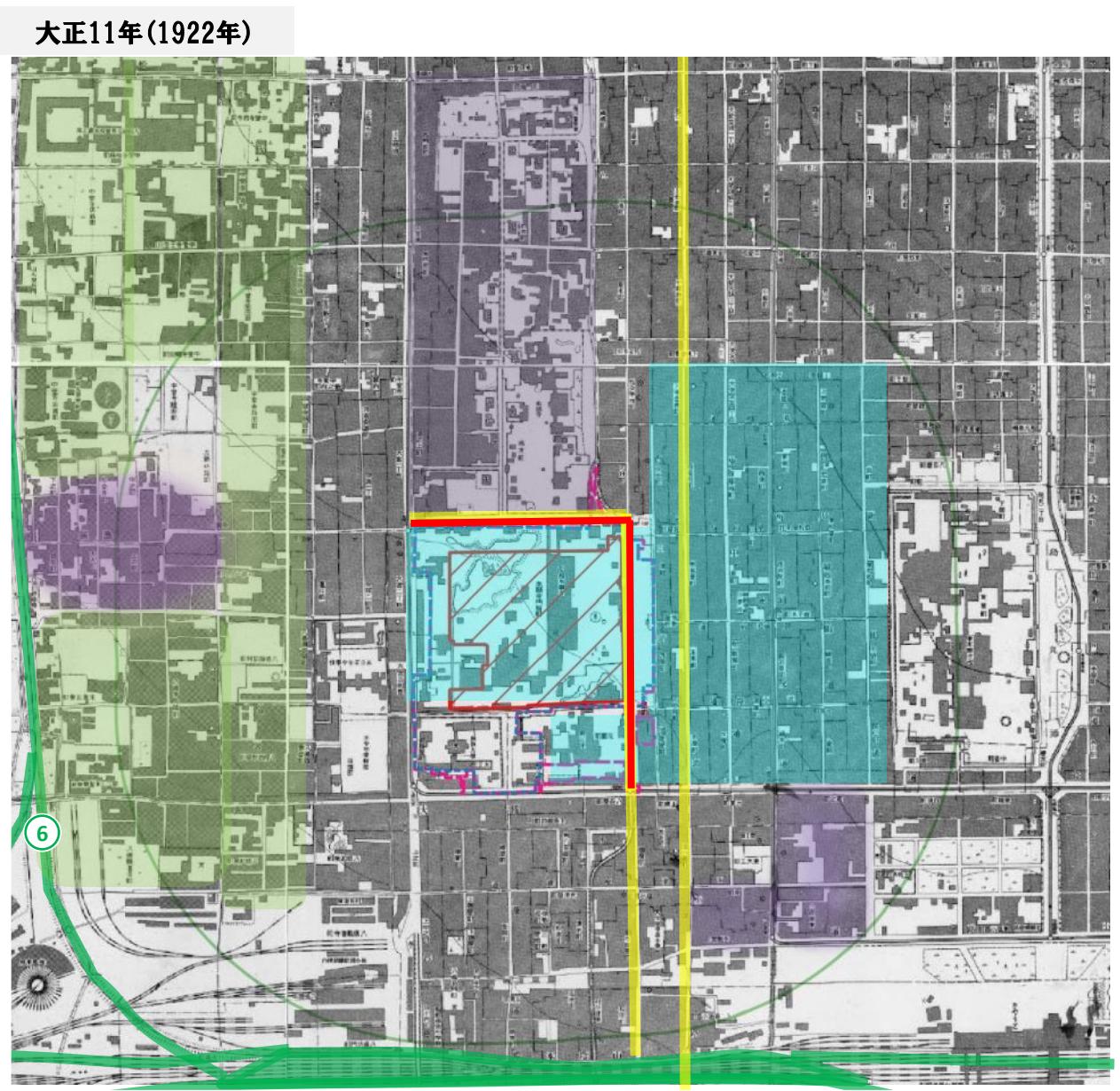
図「花洛一覽図」(国立国会図書館ホームページ)

# エリアの土地利用の変遷 (2)



  明治16-18年時点の境外地      近景デザイン保全区域    資料: 複製地形図(明治中期)(国土地理院所蔵)  
  明治16-18年時点の境内地      視点場 (境内)    画像: 立命館大学アート・リサーチセンター  
  特に着目する通り      視点場 (参道等)

**⑤ 島原**  
 明治2年の絵図同様、櫛笥通以東は市街化しているが、周囲はまだ市街化していない。

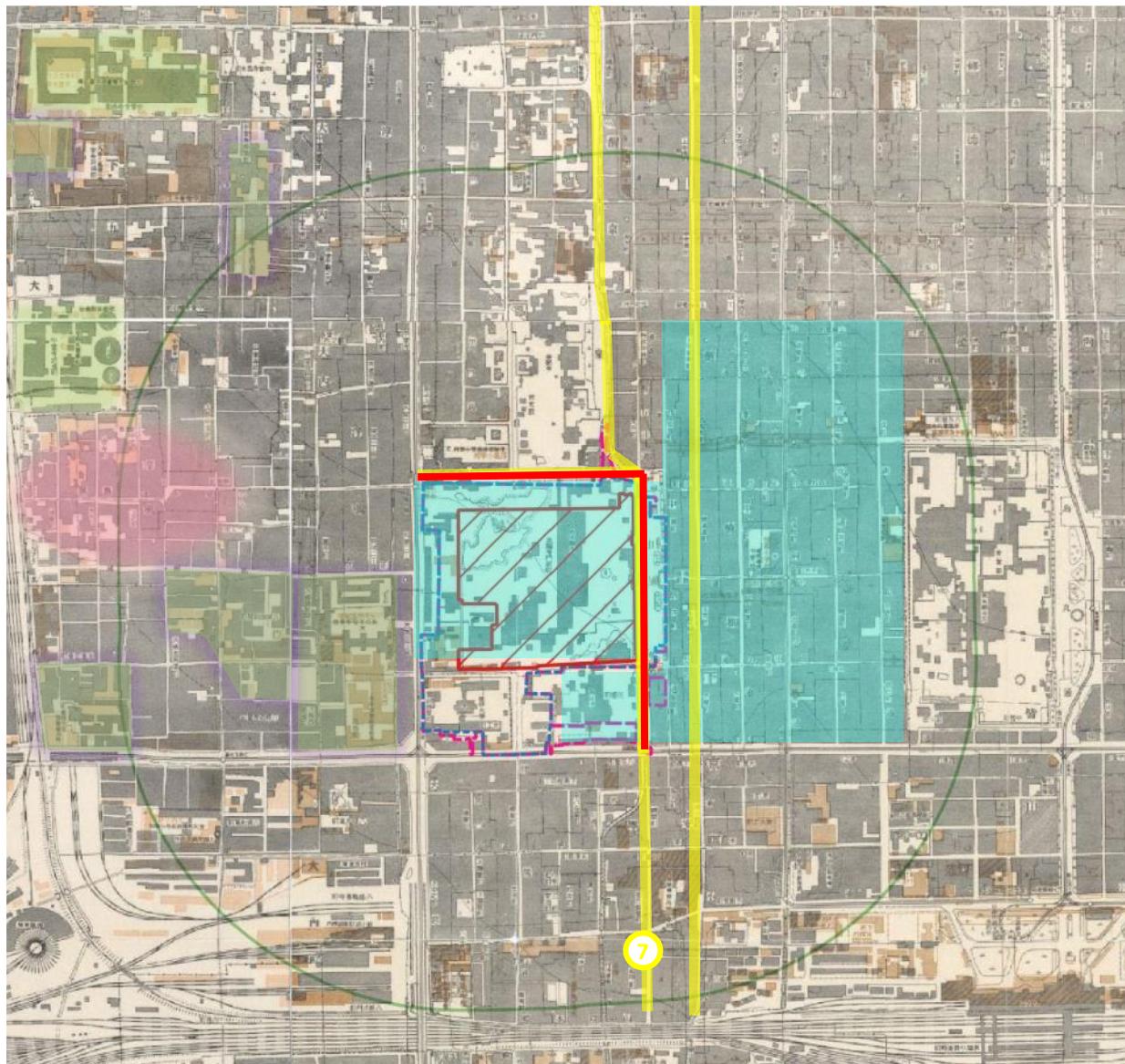


資料: 京都市都市計画基本図(大正11年)(京都大学文学研究科所蔵)  
 画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

**⑥ 京都電鉄の開業**  
 京都鉄道が大宮から二条城、大宮駅から京都駅まで延伸される。それにともない、島原周辺の市街化は広がっている。

## エリアの土地利用の変遷 (3)

昭和28年(1953年)



昭和10年都市計画図の内容

昭和28年の修正測図

資料:京都市都市計画基本図(昭和28年)  
 (京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号)))  
 画像:立命館大学アート・リサーチセンター

## ⑦ 堀川通

昭和22年、第二次大戦後の市街地整備計画で南北幹線道路として幅50mに拡張されるのにもない、四条通以南では、東堀川通と中筋通の併合した路線と接続され、28年に現在の姿になった。

昭和34年(1959)には、交通量の増加に対応した堀川通の拡張が計画され、京都市の要請で総門を現在地に移転した。<sup>16)</sup>

※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3,000)を参考にし、作成したものです。

# 西本願寺境内の歴史的資産と守っていききたい眺め(1)

## 西本願寺

本願寺は宗祖親鸞聖人によって開かれた浄土真宗本願寺派の本山で、当初京都東山に創建され、その後各地に寺基を移したが、天正19年（1591）豊臣秀吉により寺地寄進を受けて現在地へ移ったものである。伽藍は移転後直ちに整えられ、寛永10年（1633）頃にほぼ今日に近い姿となっていた。その後、明暦3年（1657）に黒書院、17世紀末に南能舞台を建立、宝暦10年（1760）には本堂を再建するなどの整備が進められ、今も桃山文化を代表する建造物や庭園が多く残されている。

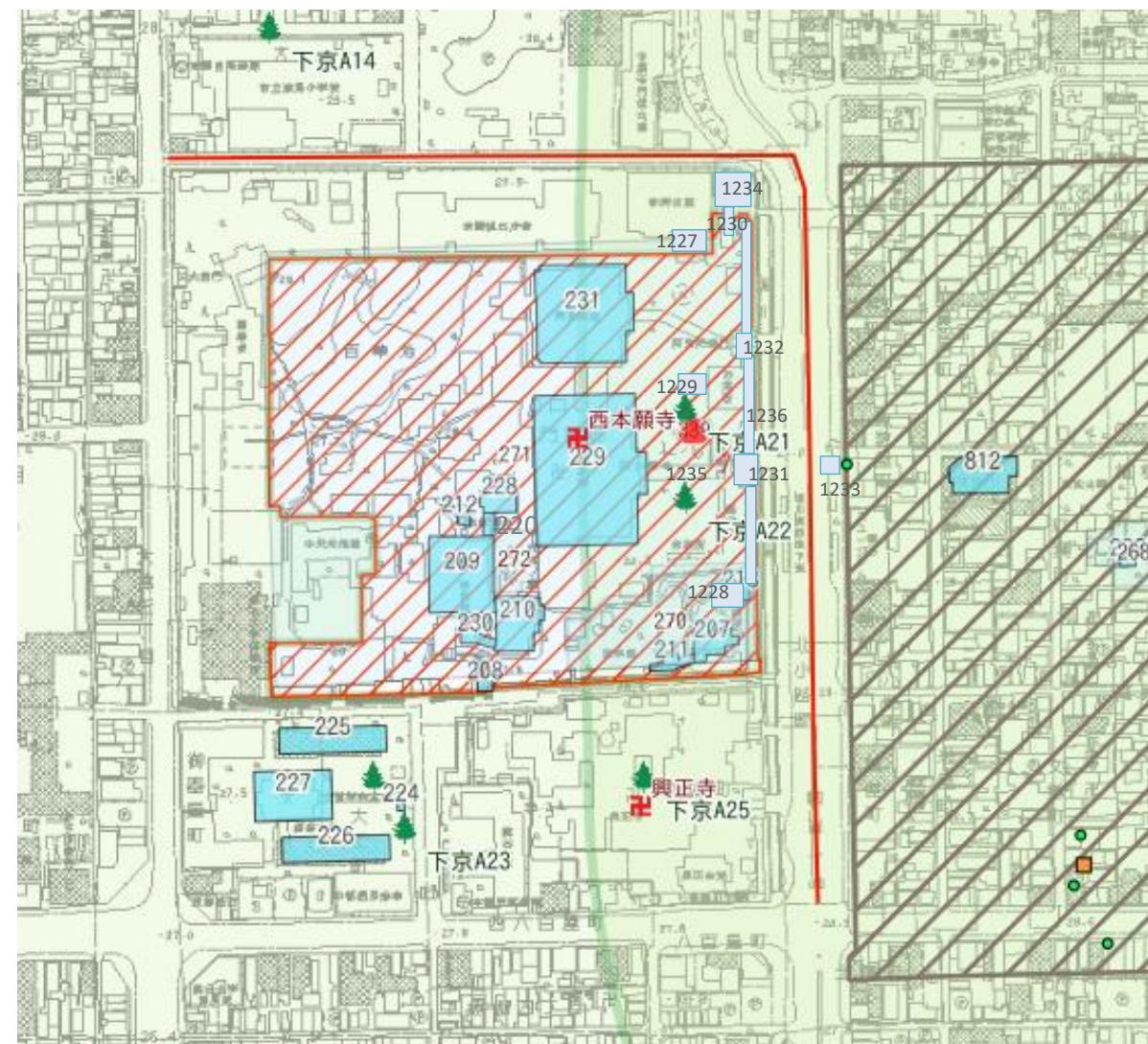
なかでも元和4年（1618）に造営された書院は、公的な接客の場である対面所（鴻の間）と私的な場である白書院とから構成された建物で、豪壮な書院造の形態を踏襲している。またこの東側に配された虎溪の庭と呼ばれる枯山水庭園（大書院庭園）は、滝・溪流・海を表した単純明快な構成であるが、色石やソテツを用いるなど派手で大胆な桃山時代の豪華さが表れている。

滴翠園の池に面して建つ飛雲閣は、三層の楼阁建築で、その外観は奇趣に富み、軽快で卓抜した構成を持つ桃山時代の気風を伝えている。

現在、日本における最大級規模の木造建築である、御影堂・阿弥陀堂、桃山文化を代表する建造物である書院、黒書院及び伝廊、唐門、北能舞台、飛雲閣が国宝に、また大書院庭園が特別名勝に指定されている他、11棟（本願寺伝道院を含む）が重要文化財に指定され、滴翠園が名勝に指定されている。<sup>17)</sup>

## 文化財

国宝	飛雲閣	207	唐門	208		
	書院 (対面所及び白書院)	209	北能舞台	212	黒書院及び伝廊 (2棟)	220 228
	御影堂	229	阿弥陀堂	231		
国指定重要文化財	玄関、浪之間、 虎之間、太鼓之間	210	浴室(黄鶴台) 附廻廊	211	能舞台(附橋掛)	230
	経蔵	1227	鐘楼	1228	手水舎	1229
	鼓楼	1230	御影堂門	1231	阿弥陀堂門	1232
	総門	1233	附 御成門	1234	附 目隠塀	1235
	附 築地塀	1236	旧真宗信徒生命保 険株式会社本館 (本願寺伝道院)	812		
国指定史跡	境内	271				
国指定名勝	滴翠園	270				
国指定史跡 及び 特別名勝	大書院庭園	272				



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

**【凡例】**

<ul style="list-style-type: none"> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; border: 1px solid red; background: repeating-linear-gradient(45deg, transparent, transparent 2px, red 2px, red 4px);"></span> 視点場（境内）</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; border: 1px solid red;"></span> 視点場（参道等）</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; border: 1px solid green;"></span> 近景デザイン保全区域</li> </ul>	<p><b>建造物・庭園</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 15px; background-color: blue; border: 1px solid black;"></span> 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 15px; background-color: yellow; border: 1px solid black;"></span> 歴史的意匠建造物</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 15px; border: 1px solid green;"></span> 界わい景観建造物</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 15px; background-color: orange; border: 1px solid black;"></span> 京を彩る建物や庭園</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 15px; background-color: lightblue; border: 1px solid black;"></span> 文化財（建築物）</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 15px; background-color: lightblue; border: 1px solid black;"></span> 文化財（史跡・名称）</li> </ul> <p><span style="color: red; font-weight: bold;">社</span> 国土地理院社寺データ等 ※</p>	<p><b>樹木</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 15px; background-color: red; border: 1px solid black;"></span> 天然記念物</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 15px; background-color: green; border: 1px solid black;"></span> 保存樹・区民の誇りの木</li> </ul>
--	---	---

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m<sup>2</sup>以上の社寺データ

# 西本願寺境内の歴史的資産と守っていききたい眺め(2)

## [国宝]



飛雲閣※



唐門



書院  
(対面所及び白書院) ※



北能舞台※

## [国指定史跡]



境内

## [国指定名勝]



滴翠園※

## [国指定史跡及び特別名勝]



大書院庭園※



黒書院及び伝廊※



御影堂



阿弥陀堂

## [国指定重要文化財]



玄関、浪之間、虎之間、  
太鼓之間※



浴室(黄鶴台)附廻廊※



能舞台(附橋掛) ※



経蔵※

## ■ 樹木



鐘楼※



手水舎※



鼓楼※



御影堂門※



阿弥陀堂門※



総門※



附 御成門※



附 目隠塀※



附 築地塀※



旧真宗信徒生命保険株式会社本館  
(本願寺伝道院) ※

### [区民の誇りの木]

エノキ：  
駐車場 下京A12

駐車場の一角にありますが、もとは妙満寺境内にあった大木です。



### [区民の誇りの木]

ムクノキ：  
駐車場 下京A13

現在は駐車場になっていますが、かつては妙満寺の境内でした。天をつくように伸びた2本のムクノキは、幹が1mを超える大木に育っています。実は1cm程度の球形で、秋に黒く熟します。果肉は甘みがあります。



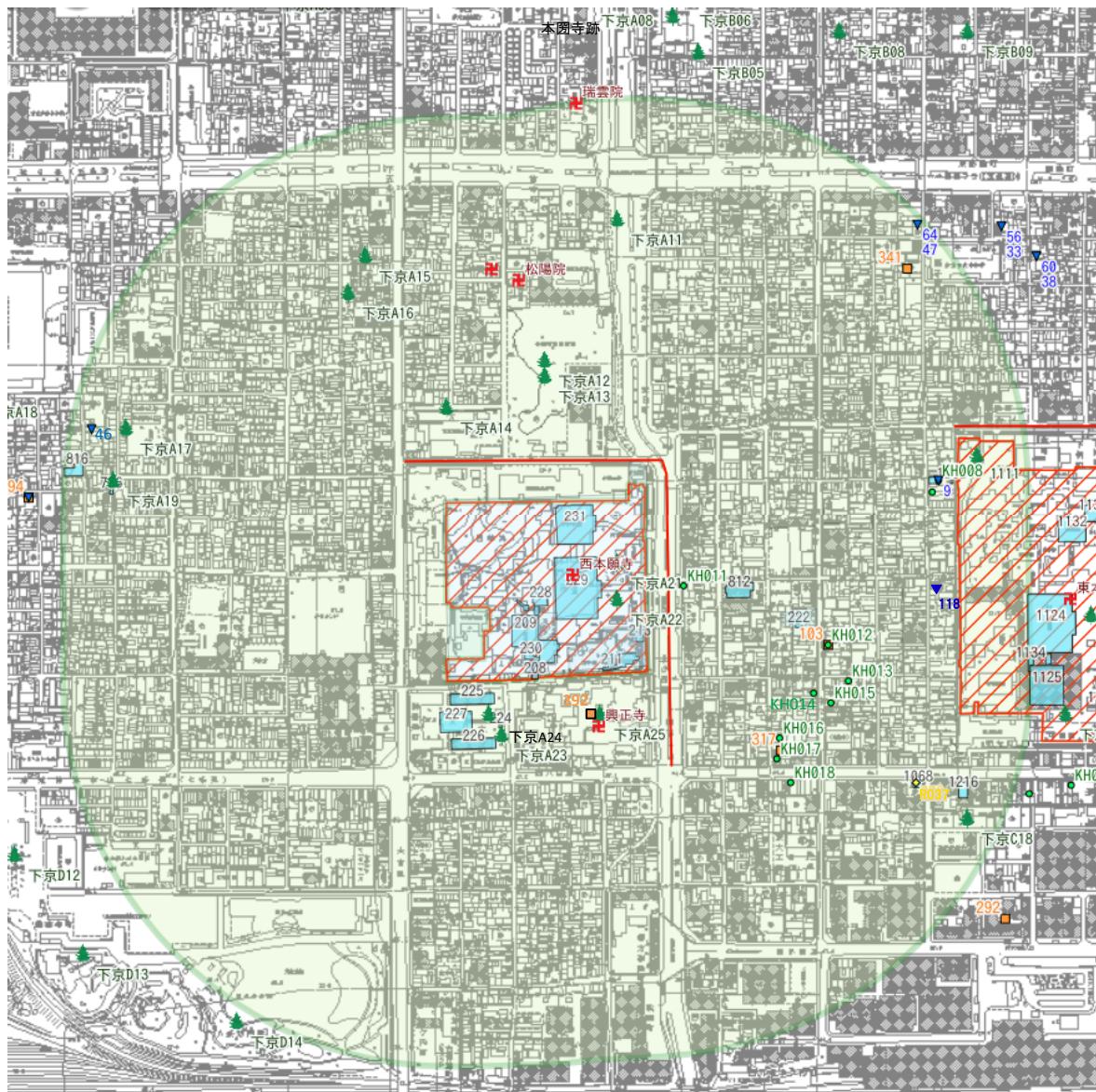
### [市指定天然記念物・区民の誇りの木]

イチヨウ：御影堂前  
下京A22 ▲706

1788年の天明の大火の際に、迫る炎を前にして勢いよく水を吹き出し、御影堂を延焼から防いだといわれ、「水吹イチヨウ」と呼ばれています。太い枝が水平に伸びているのが特徴。



# 西本願寺周辺の歴史的資産(1)



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】		
	視点場 (境内)	
	視点場 (参道等)	
	近景デザイン保全区域	
	景観重要建造物・歴史的風致形成建造物	
	歴史的意匠建造物	
	界わい景観建造物	天然記念物
	京を彩る建物や庭園	保存樹・区民の誇りの木
	文化財 (建築物)	
	文化財 (史跡・名称)	
	国土地理院社寺データ等 ※	

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

## ■ 興正寺

[京都を彩る建物や庭園]



392

北側は北小路通を隔てて西本願寺、背面西は龍谷大学大宮学舎に接する。円頓山と号し、真宗興正派本山。本尊阿弥陀如来。寺伝では親鸞を開祖とするが、事実上の開基は七代了源である。<sup>18)</sup>

指定理由 (京都を彩る建物や庭園)

・西本願寺の脇門跡だったが、明治9年(1876)に真宗興正派として独立し、同派の本山となる。現在の御影堂と阿弥陀堂は、火事で焼失後、明治44年(1911)に再建された。三門、阿弥陀堂門、経蔵、鐘楼、茶室などが建ち、近世から近代にわたる真宗寺院の遺構である。

## ■ 燕庵

[重国指定要文化財・国指定名勝]



重文 ※



庭園 ※  
国指定名勝

藪内家の代表的な茶室。古田織部の好みと伝える。織部が大坂出陣に際し、藪内剣仲紹智に京屋敷の茶室を与えたという。藪内家は二世真翁の時、西本願寺の良如の招きで現在地に移住したが、現地元年(1864)に焼失。現在の燕庵は、七世桂陰齋の弟子であった摂津の武田儀右衛門が、天保2・3年(1831・2)頃に燕庵を正確に写して建てた茶屋を、慶応3年(1867)に移建したものの<sup>19)</sup>

## ■ 本願寺跡



かつては西本願寺の北(京都市下京区柿本町)にあり、北は松原通、南は花屋町通、東は堀川通、西は黒門通に及ぶ広範な寺地を有したが、昭和46年(1971)現在地に移転した。大光山と号し、日蓮宗の大本山。塔頭としては本願寺移転とともに従ったという勤持院・戒善院・松林院をはじめ円竜院(応永14年日伝の開基)、智光院(永享5年日心の開基)、智了院(永正元年日受の開基)、林昌院(享祿3年日実の開基)、真如院(天文4年日映の開基)、天文法華の乱以後の創建である多門院・詮量院・了光院・常証院・松陽院・了円院・本実院・本妙院・本栖院・英鏡院・智妙院・久成院・一音院・一妙院・瑞雲院・信正院・本立院が現柿本町にあったが、戒善院・円竜院・多門院・常証院・了円院・一妙院・信正院・本立院は合併または他所に移転している。<sup>20)</sup>

## 西本願寺周辺の歴史的資産(2)

## ■ 島原

下京区西部の旧遊郭。六条三筋町に賑わっていた遊里が寛永17年(1640)市中からはずれ、丹波街道に沿う現在地に移されたのに始まる。以後、西新屋敷と称され、幕府公認の京唯一の遊女街として発展。境域は東西九九間、南北一二三間で、外周に幅一間半の堀をめぐらし、堀の内側には土塀を築いた。出入り口は、当初は東側のほぼ中央一カ所に限られ、享保17年(1732)になって西口が設けられた。廓内は、中央東西に胴(道)筋があり、その北側東から中之町・中堂寺町・下之町、南側東から上之町・西洞院町(太夫町)・揚屋町と六カ町ある。明治3年洛中の遊里支配の特権を失い、昭和33年公娼制度廃止により遊郭も禁止された。

21)

## 角屋

[国指定重要文化財]



旧島原遊郭の揚屋の遺構。揚屋とは遊客を上げて遊ばせるところで太夫や遊女は抱えない。建物は町家造に書院造・武家造をとり入れた木造2階建て、屋敷構えの大半が重要文化財。建築年代は不詳だが、主屋の一部は寛永18年(1641)島原遊郭が六条三筋町から現在地へ移された時に移築したものといひ、その後増築を重ね、幕末頃に現在の姿になったとみられる。表全体が格子造で、表・奥・台所の三部からなり、1階に2室、2階に11室の大小の客室を備える。22)

## 輪違屋

[市指定有形文化財]



下京区島原中之町にある置屋。養花楼ともいう。置屋は太夫・芸妓を抱える家で、太夫・芸妓は揚屋に来た客の招きにより出向く。元禄年間(1688~1704)に創業し、安政3年(1856)に焼失、現在の建物は翌4年の再建。明治4年の改造を経る。23)

## 島原大門

[市登録有形文化財]



島原は寛永18年(1641)に設けられた我が国最初の公許の花街である。当時四周は堀と塀で囲まれ、門はその東辺北寄りに設けられていたが、明和3年(1766)に現在地に付け替えられた。現在の門は慶応3年(1867)に建てられた。控柱の上にも屋根をのせる高麗門形式である。

## ■ 景観上重要な建築物、庭園等

## 富士ラビット

[歴史的意匠建造物、国登録文化財]



◆R037 ※

京都で自動車販売の草分けといわれる日光社の社屋として建てた3階建ての商業ビル。社名の日光を象ったといわれる塔屋の意匠や古典的な柱のオーナメント、1階正面の自動車の描かれたステンドグラスなど様々な要素が混じり合った建物として知られている。

## 和田家住宅

[景観重要建造物、界わい景観建造物、国登録文化財(主屋、土蔵)]



▼9/●KH008

(指定理由)  
・典型的な表屋造の町家として、本願寺界わいの景観形成に寄与し、内部も建造物と庭が一体となって良好に維持されている。加えて、元治の大火を凌いだといわれる土蔵は貴重なものであり、地域の歴史的な要素を持ち得る建造物として、地域の景観を良好に継承するものである。

## 西澤邸

[歴史的風致形成建造物]



▼46

(指定理由)  
・島原における茶屋様式を残す数少ない町家であり、花街の歴史と京町家の暮らしの伝統を歴史的意匠により現代に継承する、重要な建造物であり、ものづくり・商い・もてなしのまち京都及び、暮らしに息づくハレとケのまち京都の歴史的風致を形成している。

## 芦田邸

[景観重要建造物、歴史的風致形成建造物]



▼64 ▼47

(指定理由)  
・昭和初期の町家の外観意匠を良好に保持しており、地域の景観の記憶として重要な建物である。

## 明覚寺

[歴史的風致形成建造物]



▼118

(指定理由)  
・かつて西本願寺門前に位置し、現在は東本願寺に隣接して建つ浄土真宗本願寺派の寺院で、第17代住職がシルクロードにそって残る仏教遺跡を調査した大谷探検隊に参加するなど、五百余年の永きにわたり本願寺本山を支える。現在では本堂を地域に開放するなど、地域に親しまれた信仰の場としての歴史的風致を形成する。

## 林邸

[界わい景観建造物]



●KH13

(指定理由)  
・茶屋当時の姿が良く残され、随所に見られる凝った造作は非常に貴重なものである。また、釜戸(クド)や走り等の設備も含めて、保存の状態は極めて良好で、復元された外観意匠と共に、上七軒の歴史を今に伝え、地域の景観を良好に継承するものである。

## きょうと和み館(旧村井銀行七条支店)

[京都を彩る建物や庭園]



■317

明治のたばこ王、村井吉兵衛が創業した村井銀行七条支店として大正3年に建築された煉瓦造2階建ての建物。正面にドリス式オーダーの4本の円柱を備えた外観が建物の特徴。内部には、天井や建具などが残る。七条通の大正期の景観を伝える建物である。

# 西本願寺周辺の歴史的資産(3)

## 林英社屋

[京都を彩る建物や庭園]



■341

昭和13年(1938)に工場兼事務所として建てられたもの。道路に沿って長い塀が建ち、新町通の景観に寄与している。天井の高い大空間は、風呂敷工場であったことをしのばせる。寄宿舍棟も残されている。

## 本願寺・東寺界わい景観整備地区

[界わい景観建造物、京都を彩る建物や庭園]

本願寺地区は、東西の本願寺の「寺内町」として400年余にわたり都市生活が営まれてきた歴史的市街地である。仏具、法衣等の宗教関連用品を扱う見世造りの商店、しもた屋等の町家に見られた加敷天井、腕木びさし、木格子などの特徴ある様式を持った建築物、中小寺院の表構え、大寺院の躰等により形成される町並み景観は地区に固有のものである。

### 辻井邸



●KH007

### 山本亀太郎商店



●KH011

### 小林邸



●KH012 ■103

### 川勝直七 法衣店



●KH014

### 細見邸



●KH015

### 摂津十三日講詰所



●KH016

### ザックホール



●KH017

### 富田邸



●KH018

## ■ 文化財(建築物)、史跡・名勝 等

[国指定重要文化財]



龍谷大学 旧守衛室※



龍谷大学 北覺※



龍谷大学 南覺※



龍谷大学 本館※

## [樹木]

名称	保存樹	天然記念物	区民の誇りの木
ケヤキ:堀川通			🌲下京A11
オリーブ:淳風小学校			🌲下京A14
クスノキ:住吉神社			🌲下京A15
クスノキ:慈雲寺			🌲下京A16
エノキ:西新屋敷中之町			🌲下京A17
シダレヤナギ:島原大門前			🌲下京A19
イチヨウ:龍谷大学(大宮学舎)	指定あり		🌲下京A23
クスノキ:龍谷大学(大宮学舎)			🌲下京A24
クスノキ:常葉幼稚園			🌲下京C18

※:(画像)京都府地図情報統合型地理情報システム(GIS)

# 景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

## 歴史遺産型美観地区（本願寺地域）

本願寺地域は、大伽藍を持つ東・西本願寺と渉成園及びその周辺から構成され、寺内町及び門前町として発展した地域である。

両本願寺の寺内町には、仏壇・仏具・人形等の地場産業の生産と販売を兼ねた店舗及び参拝者宿坊である和風旅館が軒を連ねている。こうした地域の景観特性の継承を、この地域の景観形成の基本方針とする。

このため、両本願寺に面する建築物にあっては、重厚な本願寺の建築物と調和するように和風を基調とするとともに、存在感のある門や築地塀等との連続性に配慮するなど、寺内町の風情を保全するよう誘導する。その他の敷地においては、町並みの基調となっている京町家との調和を図るため、日本瓦ぶきの特定勾配屋根を基調とし、低層階に格子等の和風意匠を継承した外観に配慮することにより、寺内町の雰囲気や継承する落ち着いた町並み景観の保全を図る。



1) 西本願寺(御影堂)



2) 北小路通の町並み

## 本願寺・東寺界わい景観整備地区

### 【景観の特性】

本願寺地区は、東西の本願寺の「寺内町」として400年余にわたり都市生活が営まれてきた歴史的市街地である。仏具、法衣等の宗教関連用品を扱う見世造りの商店、しもた屋等の町家に見られた加敷天井、腕木びさし、木格子等の特徴ある様式を持った建築物、寺内町の寺院の表構え、大寺院の薨等により形成される町並み景観は地区に固有のものである。

### 【景観整備の目標】

- ・上記の特色ある景観を維持し、又は整備すること。
- ・多様な宗教関連用品を扱う店舗及び弘法と多くの市民の居住空間の共存を図りながらの町づくりや建物づくりの知恵などを評価し、町並み景観づくりに活かすこと。



3) 周辺から西本願寺への眺望



4) 周辺の町並み(正面通)

## 旧市街地型美観地区（本願寺周辺）

この地域は、両本願寺の寺内町の一部及び島原から構成される。この地域一帯は、大伽藍を持つ西本願寺・東本願寺を中心として、寺内町として発展した。両本願寺の寺内町では、仏壇・仏具・人形等の地場産業の生産と販売を兼ねた店舗や参拝者宿坊である和風旅館が軒を連ねている。また、島原には、芸能と文芸の発展に寄与した日本のもてなし文化の粋が残されている。両本願寺の大屋根と渉成園の緑地空間は、地域のランドマークであるとともに、京都を代表する景観である。また、島原はすでに住宅に建て替わっているものも多いが、通りに面して豪壮な格子を構える角屋や輪違屋及び島原大門が花街の名残を残している。こうした両本願寺や島原の特色ある風情を継承することを、この地域の景観形成の基本方針とする。



5) 京町家(西本願寺西)



6) 島原の町並み

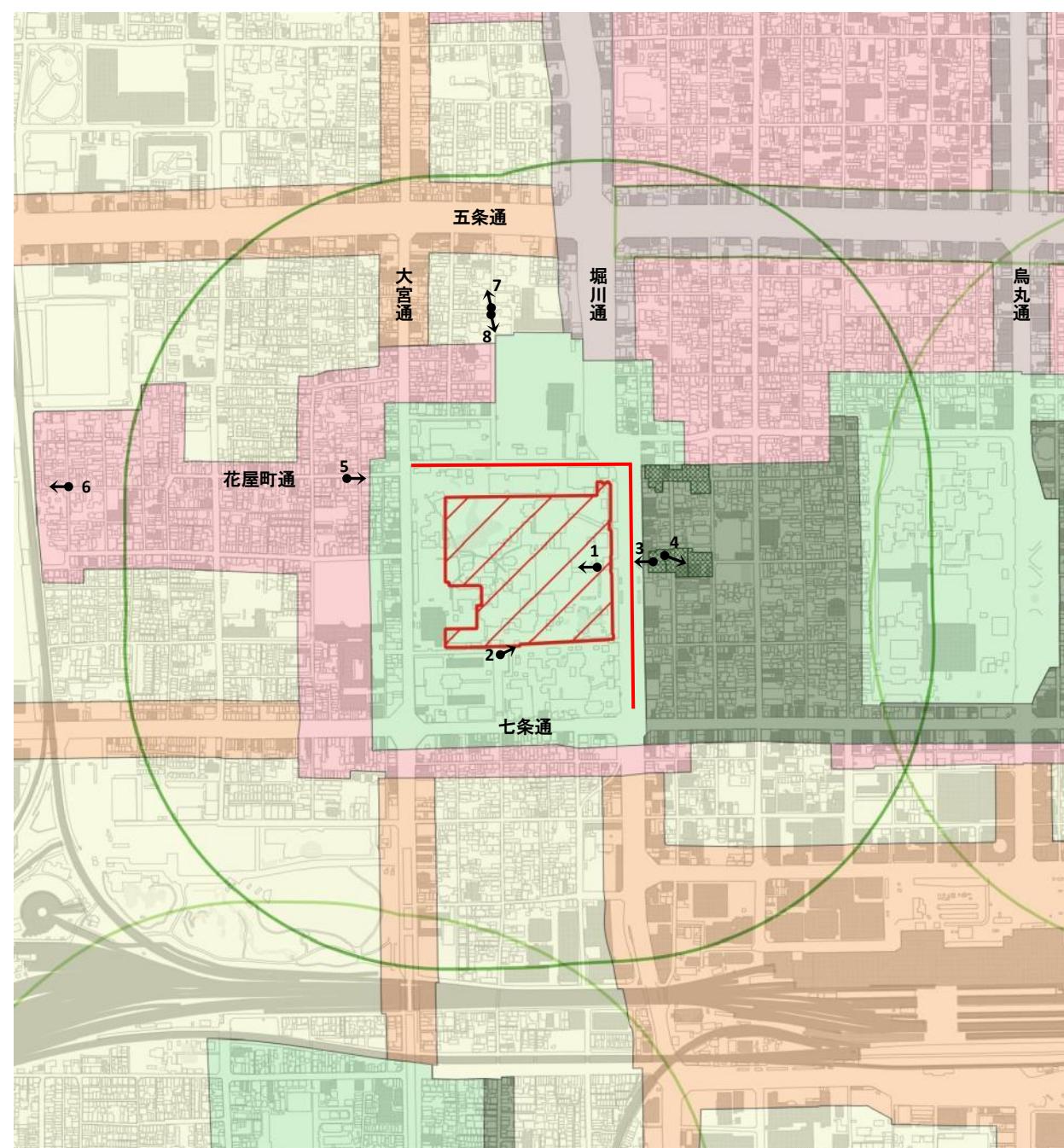
## 市街地型美観形成地区（京都駅周辺）

京都駅周辺地域は、北を両本願寺周辺の旧市街地型美観地区、東を鴨川西の岸辺型美観地区及び鴨東地区の旧市街地型美観地区、南を九条通、西を堀川通に囲まれた地域から、塩小路通と八条通に挟まれた京都駅一帯、堀川通、烏丸通、河原町通、七条通及び九条通の沿道型美観形成地区を除いた地域で構成される。京都の玄関口の周辺として、利便性を求めてホテルや共同住宅等が立ち並ぶ現代的な都市景観を構成している。

このため、この地域における建築物等は、歴史都市・京都の玄関口の周辺地域にふさわしい、建築物の色彩、屋上景観等の整備に努め、格調高いデザインとするとともに、京都らしい洗練された形態意匠の建築物とすることにより、良好な市街地景観の創出を図る。



7) 8) 周辺の町並み(猪熊通)



【凡例】	
<b>眺望景観保全区域</b>	<b>景観地区</b>
視点場（境内）	山ろく型美観地区
視点場（参道等）	山並み背景型美観地区
近景デザイン保全区域	岸辺型美観地区
<b>風致地区</b>	旧市街地型美観地区
風致地区第1種地域	歴史遺産型美観地区 一般地区
風致地区第2種地域	歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区
風致地区第3種地域	歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区
風致地区第4種地域	重要界わい景観整備地域
風致地区第5種地域	沿道型美観地区
風致特別修景地区	市街地型美観形成地区
	沿道型美観形成地区
	<b>建築物修景地区</b>
	山ろく型建築物修景地区
	山並み背景型建築物修景地区
	岸辺型建築物修景地区
	町並み型建築物修景地区
	<b>その他</b>
	伝統的建造物群保存地区
	歴史的風土保存地区
	歴史的風土特別保存区域

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

- 1) 京都市 編『史料 京都の歴史 第12巻 下京区』平凡社、1981、p. 455
- 2) 下中邦彦『日本歴史地名大系 第27巻 京都市の地名』平凡社、1979、p. 944
- 3) 千宗室・森谷尅久『京都の大路小路』小学館、1994、p. 66
- 4) 前掲2)、p. 970
- 5) 前掲1)、p. 455
- 6) 前掲2)、p. 944
- 7) 前掲1)、p. 431
- 8) 前掲1)、p. 473
- 9) 前掲2)、p. 967
- 10) 前掲2)、p. 962
- 11) 前掲2)、p. 962
- 12) 前掲2)、p. 960
- 13) 前掲1)、p. 431
- 14) 前掲1)、p. 454
- 15) 佐和 隆研 ほか編集『京都大事典』淡交社、1984、p. 19
- 16) 前掲15)、p. 837
- 17) 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会『千年の都 世界遺産古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市)』第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会、1998、p. 147
- 18) 平凡社『寺院神社大事典1 京都・山城』平凡社、1997、p. 236
- 19) 前掲15)、p. 108
- 20) 前掲18)、p. 643
- 21) 前掲15)、p. 472
- 22) 前掲15)、p. 538
- 23) 前掲15)、p. 1000